

指導計画例③

ここに、示している様式は一例であり、より重点化したり、より端的に記載したりすることも考えられます。単元の目標に照らして観点別学習状況の評価を行う上で必要な要素が盛り込まれていれば、語順や記載の仕方等は必ずしも本様式どおりである必要はありません。

保健体育科（科目「体育」）学習指導案

令和〇〇年〇〇月〇〇日（〇） 〇校時

〇立〇〇高等学校 体育館

□年□組 □□名

指導者 〇〇 〇〇

※入学年次の学習内容について作成している。

1 単元名 武道（剣道）

2 単元の目標

(1) 次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開する**ことができるようにする。**

イ 剣道では、相手の動きの変化に応じた基本動作や基本となる技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を**できるようにする。**（知識及び技能）

(2) 攻防などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝える**ことができるようにする。**（思考力、判断力、表現力等）

(3) 武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などや、健康・安全を確保する**ことができるようにする。**（学びに向かう力、人間性等）

「2 単元の目標」の作成上の注意事項

- ・学習指導要領の目標及び内容、学習指導要領解説等の内容を踏まえて作成する。
- ・（知識及び技能）→（思考力、判断力、表現力等）→（学びに向かう力、人間性等）の順に記載。
※体づくり運動は（知識及び技能）が（知識及び**運動**）となる。
- ・文末は「～できるようにする。」と表記する。

3 指導について

生徒観→ これまでの生徒の学習状況や習熟状況、体力テストの測定結果やアンケート調査の内容等踏まえ、学習を進める上で必要となる生徒の実態を記載する。

実態を踏まえた上で、本単元を通して身に付けさせたい内容について記す。

教材観→ 単元の一般的な特性と学習する意義・位置付け等を考慮し、育成する資質や能力を明確に示す。

指導観→ 生徒の実態を踏まえ、単元の目標を達成するための具体的な手立てを示す。
主体的・対話的で深い学びを実現するための手立てを記す。

「3 指導について」の記入上の注意事項

- ・「生徒観」「教材観」「指導観」の順に記載するが、3つの観点についてその内容が読み取れれば、あえて項目立てする必要はない。

4 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>① 剣道を学習することは、自国の文化に誇りをもつことや、国際社会で生きていく上で有意義であることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>② 試合の行い方には、簡易な試合におけるルール、審判及び運営の仕方があることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>③ それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて学習した具体例を挙げている。</p>	<p>○技能</p> <p>① 相手と接近した状態にあるとき、隙ができた面を退きながら打つことができる。(引き面)</p> <p>② 相手が打とうとして竹刀の先が上下に動いたとき、隙ができた面を打つことができる。(出ばな面)</p> <p>③ 相手が小手を打つとき、体をかわしたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打つことができる。(小手抜き面)</p>	<p>① 自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。</p> <p>② 相手を尊重するなど伝統的な行動をする場面で、よりよい所作について、自己や仲間の活動を振り返っている。</p>	<p>① 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとしている。</p> <p>② 健康・安全を確保している。</p>

「4 単元の評価規準」の作成上の注意事項

- ・単元の評価規準は、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編」（平成30年7月）文部科学省（https://www.mext.go.jp/content/1407073_07_1_2.pdf）、及び『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校 保健体育（令和3年8月）文部科学省 国立教育政策研究所（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_hokentaiiku.pdf）を参考にして作成する。
- ・文末の表現は、上記の例のように各観点において**決められた表現を用いる。**

5 指導と評価の計画（別途掲載）

「5 指導と評価の計画」の作成上の注意事項

- ・指導と評価の一体化を図り、カリキュラム・マネジメントのために必ず作成する。
- ・詳細については、別紙資料及び『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」高等学校 保健体育（令和3年8月）文部科学省 国立教育政策研究所を参照する。
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_hokentaiiku.pdf

6 本時の展開 (5/16 時間)

指導と評価の計画及び単元の目標から、より具体的に本時のねらいをおろしてくる。

(1) 本時の目標

○それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて学習した具体例を挙げる **ことができるようにする。**【知識】

(○相手が打とうとして竹刀の先が上下に動いたとき、隙ができた面を打つ **ことができるようにする。**(出ばな面)【技能】)

(2) 準備物 資料

竹刀、学習カード

(3) 展開

時間	学習内容と学習活動	教師の指導・支援 (◆評価規準と方法)
導入 15分	1 挨拶、健康観察 2 準備運動 3 前時の振り返り及び既習技の復習 本時の学習課題について、 生徒に提示する言葉で記入 する。 4 本時の学習内容の確認	○生徒の健康状態について、出欠確認の際直接本時の目標、本時のねらい及び評価規準が一致するようにする。 ただし、 技能や主体的に学習に取り組む態度 のように、習得や活用の段階等を踏まえ、評価をするまで一定期間を置くなど、指導と評価の時期をずらして行う場合も考えられる。その場合は、必ずしも一致するものではないことに留意する。 について理解できるようにする。
<p>【本時のねらい】 相手が打とうとして竹刀の先を上下に動かした際に生まれる隙を捉えて、面を打とう！</p>		
展開 25分	5 技の説明を聞き、動画の視聴を通して理解を深める。 ◎約束練習 (3~4人グループ) 元立ちと掛かり手以外の生徒は、タブレットと用いて練習を記録し、わかりやすくフィードバックする。 ◎自由練習 (3~4人グループ) 待っている生徒は撮影をしたり、見取り稽古をして、その内容をフィードバックし、また自分の練習に生かす。	○ICTを活用し、よりわかりやすく技の説明を行う。 ○活動している生徒と待っている生徒や撮影している生徒が交錯しないように注意する。 ○巡回しながら、出ばな面がうまく打つことができるように成功例を見せたり、適切な助言を行う。 個別の対応が必要な生徒への指導の手立てや対応策を示す。
<p>◆知識③ 出ばな面を身に付けるための技術的なポイントがあることについて学習した具体例を挙げている。【学習カード：記述】</p>		
まとめ 5分	出ばな面を身につけるためのポイントを話し合い、その内容を学習カードに記入する。	○学習が深まるように助言する。 (評価の観点)、【評価方法】を示す。

指導と評価の計画

単元の目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
知識及び技能 思考力、判断力、表現力等 学びに向かう力、人間性等	○オリエンテーション(復習含む) ・意義 ・特性 ・伝統的な考え方 知① 伝統的な考え方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 新たな技の習得 ○引き技 知③ 技の行い方
学習の流れ	0	10	20	30	40	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	
評価機会	知①	知③	知③	知③	知③	知③	知③	知③	知③	知③	知③	知③	知③	知③	知③	知③	
単元の評価規準	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	①学習カード ②観察 ①観察 ②学習カード	

知識・技能は、評価する内容と指導する内容を明確にするため、便宜上、別々に表記している。
①相手が打つとして竹刀の先が上下に動いたとき
②相手が打つとして竹刀の先が上下に動いたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打つことが出来るようになるまで
③相手が打つとして竹刀の先が上下に動いたり、竹刀を頭上に振りかぶったりして面を打つことが出来るようになるまで

1時間に評価する観点は2つまでとする。(1時間に1つ評価することが望ましい)

2つの観点を評価する場合は、共に「観察」による評価を組み合わせない方がよいが、あえて組み合わせる場合は混同や見落とし等に注意する。

記録に残す評価を実施しない時間を設定することもできる。(他の時間に評価規準の内容が全て計画されていること)

生徒の学習状況を最終確認する。

技能の評価は、練習時間を数回とった後に行う。

評価方法を示す。